

# 鳳仙

発行  
桐生山鳳仙寺  
桐生市梅田町一丁目五八  
電話(0277)331-1177

## 本堂は貴重な 建築文化財

平成十四年三月、鳳仙寺本堂、桐生市指定重要文化財 建造物に指定されました。

「市内唯一の八室構成からなる大規模な方丈形式本堂であり、かつ曹洞宗本堂の伝統的な形式をよく伝える貴重な建造物である。また、市内に残る木造建造物の中でも最も古い範囲に入り、最大級の規模であることから、建築的に、また建築技術の面でも貴重である。」と書かれています。

## お彼岸の 始まり

日本は、四季のはっきりした国です。この自然の移り変わりを表した四季の区分法「二十四節気」があります。これは、一年を太陽の黄経にしたがって二十四等分した位置に各節気を定めたものです。

この中の春分、秋分には、太陽が赤道上の真上に位置し、一年を通じて昼夜の時間が等しくなります。そのため太陽が真東から昇って真西に沈みます。

立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒と言っています。この春分、秋分には、太陽が赤道上の真上に位置し、一年を通じて昼夜の時間が等しくなります。そのため太陽が真東から昇って真西に沈みます。

め、春分、秋分の日を中心に行われる「仏道実践週間」です。日本では、平安時代の大同元年(八六六年)です。早良親王の怨霊を鎮めるために春・秋とも七日間にわたって「金剛般若経」を誦誦し供養したと伝えられます。当時の人々は、迷つて

慶したのが天正二年(一五七四)五月です。以来幸いにも一度も火災や風水害に逢うこともなく現在を迎えました。建築以来、星霜す

に四世紀半……。昭和六十二年に行われた改修を含めて、何度かの補修(享保十一年に改修、明治三十四年に屋根替え、昭和二十九年に改修)がなされてはいますが、落慶当時の形態をここに残しており、室町期から江戸期の寺院建築様式を遺憾なく現代に伝えていく建築物です。本堂は、市指定文化財

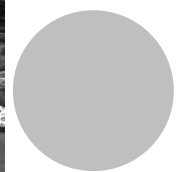
(桐生市指定重要文化財 建造物 に指定された本堂)

となつている山門とともに、鳳仙寺が県内外に誇れる貴重な建築物なのです。本堂の広さは一〇〇坪(330平方メートル)あります。内陣・須弥壇の荘厳なこと、内部に太い柱梁が巡らされ、どっしりとした中にも厳かさを参詣者たちに強く感じさせます。豊かな歴史の跡を随所に残している造りであること等々、近隣に誇れる建築物であると言つていいでしょう。

## 大本山永平寺高祖道元禪師 七百五十年大遠忌をお迎えして

平成十四年は、大本山永平寺をお開きになつた道元禪師がお亡くなりになつてから七百五十年目にあたります。五十年にたただ一度めぐりくるこの大遠忌に永平寺は、皆様をお迎えするために次の事業を行っています。

- ① 永平寺の建物を改修しました。皆様のご家庭でも、ご先祖様の追善のご法事を迎え、親戚、知人縁者をお迎えします。
- ② 道元禪師のみ教えをひらめくと、真実の自己にめざめる座禅を主体とした教えを広める事業をしています。道元禪師予修法要・歌舞伎・講演会・本の出版など。
- ③ 大遠忌参拝のご案内。大遠忌に参拝されま



### 一般墓地

緑の林に囲まれた落ち着いた雰囲気です。ゆったりとした南向き。お車でお参りできます。

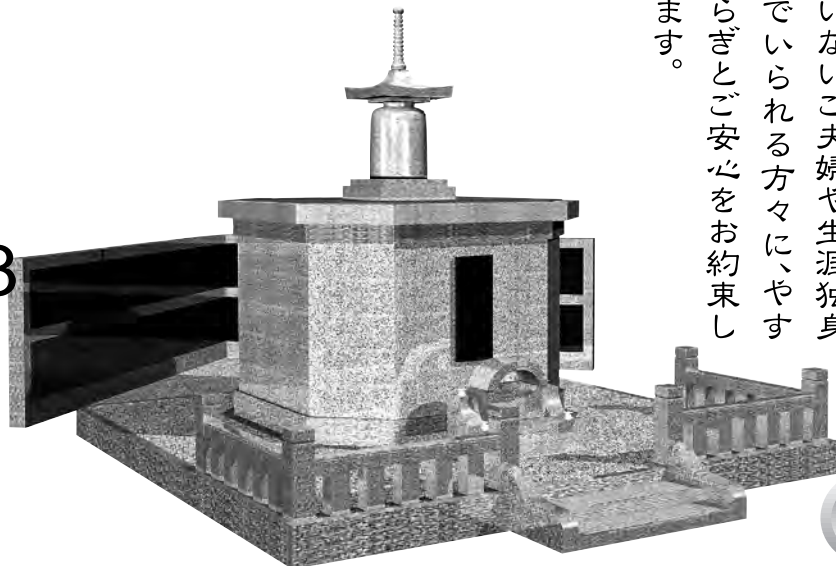
一区画 30万円より

(1坪・3.3m)

### 永代供養

お墓の供養祭祀の継承者のいない方、またご事情により、将来お墓を継承できない方のため当霊園が責任をもって、永代にわたりご供養し、おまもりいたします。お子様のないご夫婦や生涯独身でいられる方々に、やすらぎとご安心をお約束します。

### 永代供養塔



永代供養費 13万円より

# 「聴松庵」完成茶室開き

滾る湯釜から生ずる松籟の妙なる響きこそ、侘茶の真髓で、冬に温もり盛夏に清涼感をもてなす心象表現の極致は、まさに茶禅一致の理から、曹洞宗管長・永平寺住職で、百歳優る宮崎奕保禅師より、庵号を「聴松庵」と賜りました。

桐生山鳳仙寺は、松籟の響き・松風を聴くために開創されたとしても過言ではない。

桐生城主・由良成繁公は自らの菩提寺として、鳳仙寺を開基し、嫡子国繁公を新田金山城主

次子顯長公には、館林・足利両城主に配して、両毛地方の扇の要的桐生から、託した子息の治世術を、吹く風の音で頼もしく掌握した。

後年の俗謡にも、「私しや太田の金山育ち、他に木はない松ばかり」と謡われる程、新田金山城は全山が松山の感で、肉親の情愛・我が子を想う親心のと寺歴から、庵号に最適な命名で仏縁の有り難さに敬服します。

開基・成繁公こそ、武野紹鷗(千利休の師匠)から、侘茶の奥義を直接伝授された上州の正統茶人の嚆矢であり、天正四年(一五七六)桐生で、茶湯釜「大海優姥口」を鑄させ、茶碗を焼き、茶道の風雅を究めた。

稀代の戦国大名も、

天正六年没し、離塵の環境趣く、茶趣茶境の鳳仙寺に葬られた。

桐生城主・二代国繁公も紹鷗・成繁公から礼式直伝され茶巧者の誉れは小田原表にも周知された茶人で、北条氏政は天正十一年厩橋城(前橋)に茶室を建て、風雅なる茶会を催し、国繁・顯長公は、賓客扱いで招かれている。

この茶会こそ上州(群馬県)における、最初の茶会とされており、以上の如く、鳳仙寺には、

茶室や茶会の必然が存在し、寺歴の淵源を熟考すれば、茶道の奥義を究める茶人専有利用に限らず、願わくば、多くの壇信徒各位が、家族の情愛と肉親の絆人がひととして最も尊い「労る心」「思いやる心」「敬い尊ぶ心」を語り合い、再確認する「場」としての活用を望みます。 合 掌

この文章は檀家の平塚貞作さんに、まとめて頂きました。

このほど、鳳仙寺護持会によりまして、参道の拡張舗装と庫裡前の舗装が完成致しました。狭かった参道も部分的にすれ違いが出来るようになりました。

写真の「鳳仙寺表参道」の石柱および石柱設置工事はすべて水沢享司氏のご寄付です。



総門及び参道が整備されました

## 息づく「イボ地蔵」伝説

山門前に建つ石仏に、珍しい俗信仰伝説が伝えられています。祈願しますと、体にできたイボを取り除いてくださるといいます。祈願によつては心のイボ、病いのイボまでも取り除いてくださるといふこともあつて、

最近では「がん」治療の祈願に訪れる方がふえています。この信仰は、すでに江戸時代からあつたという、実に息の長い信仰になっています。

ところが「イボ地蔵」と呼ばれている石仏は、実は地蔵尊でなくて薬師如来なのです。薬師如来が、いつごろから、

このような誤つた呼ばれ方をされるようになったのかは、わかつていません。

いぼ地蔵版  
画 作者・金子

## 一部の地区世話人による「檀家の担当変更のお知らせ」

お檀家の皆様におかれましては、平素からお寺の各種行事にご協力を賜り感謝いたしております。

お陰様で鳳仙寺も皆様のご期待にお応えし、寺域の整備と環境美化を計り、参道の杉木立と東西に広がる境内には凛々とした光が射し

明るい雰囲気が出ております。

これらが幸いし、近年は檀家の増加にも繋がっており、担当範囲が増えつつあります。

そこで、鳳仙寺では適正な地区世話人さんの担当範囲につきまして、平成十三年三月より数

## 平成十四年度年回表

一周忌	平成十三年
三回忌	平成十二年
七回忌	平成八年
十三回忌	平成二年
十七回忌	昭和六十一年
二十二回忌	昭和五十五年
二十五回忌	昭和五十三年
二十七回忌	昭和五十一年
三十三回忌	昭和四十五年
三十七回忌	昭和四十一年
四十三回忌	昭和三十五年
四十七回忌	昭和三十一年
五十回忌	昭和二十八年
百回忌	明治二十六年

日曜・祝日の御法事お申込みはお早めにお願ひします。

この結果、若干の世話人さんの増加をはかると共に担当の変更をいたしました。

更に年間にわたる行事や近況の情報伝達にも役立てて頂き、一層の意志疎通をはかりたく存じます。

世話人取り扱い内容  
①年間護持会費 一口三千元、但し院号付きの場合二口以上 ②年間墓掃除費 一区画三千元

3 お施設搭婆料 毎年四月二十九日・お搭婆料三千元 希望のみ。  
④秋葉三尺坊大祭 毎年十月十六日・お札料二千元 希望のみ。  
⑤その他、お寺から特別に要請のあった事業  
①③④までは、年度初めに、④については九月に集金致します。

東山共同墓地および岩崎観音堂墓地等など個人墓地にきましてはその管理人さんが清掃費をお預かりいたします。